

研究会報告書案の骨格

(※研究会報告書のタイトルについても御議論いただきたい)

I はじめに

II 現状認識と課題設定

- 社会の変化
 - ・ 少子高齢化の進行と従来の安心のシステムの変容
 - ・ 地域社会の変化

- 地域における多様な福祉課題
 - ・ 公的な福祉サービスだけでは対応できない生活課題
 - ・ 公的な福祉サービスによる総合的な対応が不十分であることから生じる問題
 - ・ 社会的排除の対象となりやすい者や少数者、低所得者の問題
 - ・ 「地域移行」という要請
- 地域の課題
 - ・ 安心、安全の確立
 - ・ 次世代を育む場としての地域
- 住民の自己実現意欲の高まり
 - ・ 住民の自己実現意欲の高まりと地域参加
- 地域福祉の課題

III 地域福祉の意義と役割

- 地域における新たな支え合い(共助)を確立する
- 地域で求められる支え合いの姿
- 地域の生活課題に対応する
- 住民が主体となり参加する場
- ネットワークで受けとめる

コミュニティ再生の軸としての福祉

IV 地域福祉を推進するために必要な条件

- 住民主体を確保する条件があること
- 地域の生活課題発見のための方策があること
- 適切な圏域を単位としていること
- 地域福祉を実施するための環境について
 - ・ 活動の拠点
 - ・ コーディネーター
 - ・ 活動資金
- 担い手について

市町村の役割

VI 既存施策の見直しについて

- 見直しの対象
- 検証と見直しの観点
- 個別の既存施策の検証、見直し
 - ・ 地域福祉計画
 - ・ 民生委員・児童委員
 - ・ ボランティア活動
 - ・ 社会福祉協議会
 - ・ 福祉サービス利用援助事業
 - ・ 生活福祉資金貸付制度
 - ・ 共同募金

V 留意すべき事項

- ・ 多様性を認め、画一化しない
- ・ 地域がもっている負の側面
- ・ 個人情報の取扱い

○ 福祉・医療政策の施策の動向

- ・ 近年の福祉制度改革
(高齢者福祉、障害者福祉、児童福祉、在宅医療の推進)
- ・ 近年の福祉施策の方向性
 - ① 利用者本位の仕組み
 - ② 市町村中心の仕組み
 - ③ 在宅福祉の充実
 - ④ サービス供給体制の多様化